

よりよく生きるにはどのようにしたらよいか

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も開倫塾の時間を聴いて頂いてありがとうございます。今朝は、先日、慶応大学で人間主義学会が行われました。その名誉会長、村井みのる先生のお話をご紹介します。教育とは何かということですが、教え育てるという意味もあると思いますが、1つの考えは、親や先生が子を見て、上司が部下を見て、年長者が若い人を見てなど、何とかよくなってほしい、いい人になってほしいと思う。良さを追求するのが教育だ、良さを求める、よりよく生きようとするのが一番大事だ、というお話を村井先生からお聴きしました。いかなる環境であっても人はよりよく生きようとしている。ですから、よりよく生きるにはどのようにしたらよいかと奮闘すること、それが人間の価値して大事なこと、よりよく生きようとする人間こそが教育として求めるものだ。よりよく生きることを教育の根幹にいえることが大切だというのが村井先生の考え方であると私は思いました。皆さんもお子さんに何のために教育をするのかということを考えて頂きたいと思ってお話しました。私は昨日より今日、今日よりは明日、少しでもよくなってもらう手助けをするのが教育かなあと考えています。私が開倫塾の先生にお願いしていることは、いつも塾生がよりよくなるように指導してほしい。そして、そのためには自分自身もよりよくならなくてはいけないということです。ですから、色々な勉強をすることが大切です。

6月22日の火曜日、栃木県総合文化センターで開倫ユネスコ協会主催の「人間の安全保障を考えるシンポジウム」を行いました。人間の安全保障・ヒューマンセキュリティについて述べさせて頂きました。開倫塾が母体になった開倫ユネスコ協会の会長を私はしています。ユネスコは国際連合協会科学文化機構の略です。戦争とは人間の猜疑心から生まれるものであるから、心の中に平和の砦を築いて戦争をなくそうという尊い考えのもと行っているのがユネスコです。その考えを推し進めるためにあるのが全国にあるユネスコ協会です。その1つとして開倫ユネスコ協会も活動をしています。開倫ユネスコ協会の基本理念は「心の中に平和の砦を築こう」最近言われている人間の安全保障を推進しようという考えです。安全保障には2つあり、1つは国家が行う、国としての安全保障。しかし、これだけではなかなか戦争は防げません。もう1つは1人1人の人間に観点をあてた何軒の安全保障です。私は10年以上前に国際連合大学で小淵首相からこの人間安全保障についての話を聴き、感銘を受け、ユネスコ協会を設立するのであれば、この人間の安全保障を推進したいと思いました。中身は2つあります。人々の力をつける、英語で言うとエンパワーメント、能力強化。もう1つはプロテクト、保護です。この人間の安全保障は日本政府のODA政策の根本で、このために日本政府は政府開発援助を行っていると言われています。国連大学でもこの推進を基本理念に色々な調査、研究をはじめられています。梅雨でうっとうしいですが、皆さんも体調に気をつけて頑張ってください。